

教室内エンパワーメントの様相とSDGs—日本の小学校での実践より—

窪津 宏美 (横浜市立市場小学校主幹教諭／東京学芸大学大学院連合学校教育学専攻博士課程 2021年3月修了)

1. 学校教育における『多文化背景の子ども』

外国籍・外国につながる児童生徒
→日本語指導の必要な児童生徒の把握 (日本全国では5万人を超えた)

- ・文科省 (2011, 改訂2019) 『外国人児童生徒受入れの手引き』
- ・日本語教育推進法 (2019年6月)

学校教育は共生社会に向けてどのように取り組むのか
Culturally and Linguistically Diverse: Children (CLD児)

文化的、言語的に多様な背景をもつ子どもたち
⇒欧米での先行事例に学ぶ

【本ポスター：実践の報告と分析】

CDCの視点では、文化の多様性を理解する公平な教育をもって、市民感覚を育てる必要性があるだろう。一教室の取組であっても、子どもたちの葛藤やエンパワーメントの様相を提示することが、今後の教育活動の再構築につながるかと考える。

★公共の場に市民としての責任や他者への尊敬を持って 参加する姿勢や行動の基盤となる
「民主的文化のための能力：Competences for Democratic Culture -CDC (ibid 2016)」



◎カミンスのエンパワーメント理論

Cummins (2000) エンパワーメントを「力を共に創り出すこと (collaborative creation of power)」と定義し、「エンパワーメント理論とは、『抑圧的社会』から『協働的社会 (collaborative society)』への変革を視野に入れたマイノリティ児童・生徒をエンパワーする枠組みだ」

多文化共生の環境をいかに

- 教育者の役割 カミンス・ダネシ (2005) とは?
- 協働的社会を育む環境作り
- 子どもの変容を捉え
- 教育観を自己評価する

教育的状況を変革する
教室内エンパワーメント



◎持続可能な開発目標 (SDGs) のキーワード「誰一人、取り残さない」

多文化共生の中で育つ子ども達が、持続可能な未来の担い手になる

6年生 理科、社会
多文化共生 (10, 4)



⇒子ども達は、

- ・SDGsの知識を付ける。
- ・自分事として、捉えられるようにする。
- ・自ら体験することで、行動につなげられるようにする。

⇒教師は、

当たり前でない「日本の学校文化」に気付き、多文化背景の子どもの存在を捉え、誰もが安心な教室へと環境改善につなげることが出来る。

実態 (A小学校)

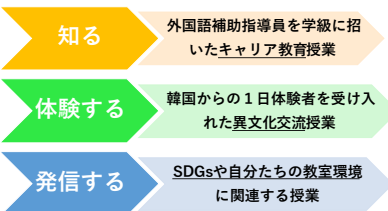
- ・6割近く外国ルーツの子ども : 20か国
- ・4人に一人、日本語指導が必要 : 200人程度
- ・国際教室担当教員の加配 (横浜市教育委員会)
- ・外国語補助指導員 (地域力) : 中国語・英語
- ・職員室補助員 (中国ルーツ) : 電話対応・配布物翻訳
- ・人権集会、多文化理解集会
- ・放課後学習会／継承語韓国語・中国語教室
- ・料理教室、持ち寄り会

葛藤

相互理解への
試み

2. 持続可能な社会への第一歩としての教室内エンパワーメント(実践)

- ・A小学校6年生 2018年4月～2019年3月
- ・発表者の担任した学級
- ・3つの実践



エンパワーメントの様相が見られるか?

- ・実践後の子ども達の取組への感想やメモを示す
- ・実践後の子ども達の行動の変容を示す
- ・年度末:来日2年の児童のインタビューを紹介する

【知る】キャリア教育

- ・外国語補助指導員・・・言語習得の難しさ・面白さ

～授業後の感想シート

(日本・女) 外国語補助指導員さんのお話を聞いて、中国語に興味をもちました。
(日本・男) 来日した中国の人に言葉を教えてほしいという思いに応えられるようにしたい。
(日本・女) お話を聞いて、これからはA小学校に来たばかりの人に声をかけてみようと思います。
(日本・男) △△さんや□□くんは中国語を話しているけど、ぼくにできることならやさしく日本を教えてあげたい。
(中国ルーツ・男) もとは中国語は得意だけど、今日聞いたらわからない言葉があって、これからも中国語を勉強したいです。

他者への
関心

自己効力感

アイデンティティ
への気づき

【体験する】異文化交流授業

- ・韓国からの1日留学生
- ・「同じ6年生」共通点



自分たちが育んできた環境への気づき

～授業後の感想シート

(日本・男) 韓国のことがよくわかったし、身近に感じた。
(フィリピンルーツ・女) 話を聞くと、うらやましいことがいっぱいありました。
(日本・女) 一緒に過ごしたから、韓国の言葉が話せるといいなと思いました。
(中国ルーツ・女) 料理などは違うものもあったけど、似ているものもあった。生活や文化は全然違った。他の国のことも知りたいたい。
(ギリシャ/台湾ルーツ・女) いろんな国の人と仲良くしていきたいです。自分のルーツにも自信をもちたいです。
(日本・男) タブレットを使用した授業があった。共通点が多くある。人権問題に力を入れていることが分かった。言葉を超えた国際的協力ができるようにがんばりたい。

【発信する】SDGsの行動や教室環境を自分たちで表現する活動

4年生の頃はフィリピンの子たちだけと遊んでた。5年生の時はいつも教室にいた。今はみんなで校庭でおにごっこしてる。だれとでも遊んでるよ

授業で日本語がわからない時は教えてくれた。新しくできた友達に英語を教えると言われてるよ。

互いを認め、高め合う姿

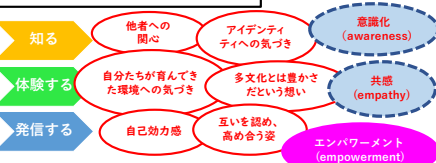
多文化とは豊かさだという思い

中学校が楽しみ、がんばりたい

教室内エンパワーメントの様相

・男児
・フィリピンから4年生後半に来日
・国際教室通級
・同学級在籍
・卒業前3月放課後インタビュー
橋本・窪津 (2020)

3. 子どもの変容を通した変革



【まとめと今後の課題 (分析の深化へ)】

一つの教室環境に過ぎないが、今回の実践は子どもの意識や行動に変容をもたらしたことが明らかになった。そして、この教室環境ではエンパワーメントの様相がみられた。学級担任である実践者へ教育観の内省を促したことがわかった。CDCの視点では文化の多様性を理解する子どもの態度、公平さを尊重する教育者の態度は、地球市民への第一歩とみたと分析する。今後は、先進国としてのヨーロッパの指標をもとに、各Competenceの分析を深めていきたい。日本での教育状況を見極め、教室での取組の再構築につながるかと考える。

- 【子どもの変容】
- ・多文化受容意識の高揚
- ・共生の自分事化
- ・主体的な行動

- 【教師の態度：教育観の内省】
- ・誰もが安心な教室環境への変革
- ・持続可能な学び環境の整備
- ・探究型授業への転換

Values	Attitudes
<ul style="list-style-type: none"> ・多文化受容意識の高揚 ・共生の自分事化 ・主体的な行動 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが安心な教室環境への変革 ・持続可能な学び環境の整備 ・探究型授業への転換
Competence	
<ul style="list-style-type: none"> ・多文化受容意識の高揚 ・共生の自分事化 ・主体的な行動 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが安心な教室環境への変革 ・持続可能な学び環境の整備 ・探究型授業への転換

資料：Competences for Democratic Culture (CDC) (ibid 2016)

参考文献・資料

- ・カミンス, ジム (2011) 中島和子訳『言語マイノリティを支える教育』慶応義塾大学出版会
- ・カミンス, ジム・ダネシ, マルセル (2005, 新装版2020) 『カナダの継承語教育—多文化・多言語主義をめざして』明石書店。
- ・窪津宏美 (2020a) 『多文化背景の子どもの就学初期支援—地域と公立学校の協働による効果—』『学校教育学研究論集』41, 69-82。
- ・窪津宏美 (2020b) 『就学初期支援によるエンパワーメント—支援者と多文化背景家庭の意識に着目して—』『日本語教育』176, 16-32。
- ・橋本ゆかり・窪津宏美 (2020) 『言葉の壁を乗り越えて繋がる多様性と自己確立の可能性—多言語・多文化化する小学校における「子どもパネルディスカッション」の追跡調査—』2020年度日本語教育学会秋季大会予稿集。
- ・ユネスコ・アジア文化センター (2021) 『変容を捉え、変容につながる評価のカタラー—SDGs時代を生きる学校教員の知恵—』ACCU。
- ・外務省/文部科学省/ユニセフ/AJE 『第24回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム』各ホームページ
- ・Cummins, Jim (2000) Language, Power and Pedagogy: Bilingual Children in the Crossfire. Clevedon, England: Multilingual Matters.